

連携室だより「さくら」

沖縄県立北部病院

病院の理念『みなさまに信頼され 心ある病院』

2021/ 8/1 第 136 号

沖縄県立北部病院 地域医療連携室

TEL 0980-52-2717 FAX 0980-52-4298

E-mail:kenhokurenkei@grape.plala.or.jp

8 月に入り、ひととき厳しい日差しが照り付けています。パンデミックのさなか開催された東京オリンピックでは、選手の方々が最高のパフォーマンスを発揮することに加え、選手の方々、関係者、国民の皆さんの安全を祈るばかりです。そして、私たちは今日も粛々と地域の方々の健康保持のため、力を尽くしてまいります。

白内障・緑内障・糖尿病網膜症について

眼科医 宮平大輝



< 白内障について >

白内障という病気は最近テレビや雑誌などでも特集が組まれたりして、ご存知の方も多と思います。この病気は眼の中にある水晶体と呼ばれる部分が年齢とともに濁ってしまい、視界がかすむ、視力低下、光がまぶしく感じる、など様々な症状が出てきます。水晶体は光を集めてピントを調節するレンズの役割を担っています。白内障の進行に伴ってピント調節機能も落ちてきます。

白内障の原因はいろいろありますが、大多数は加齢に伴うものです。治療方法は目薬と手術があります。初期の場合には目薬を使う場合があります。目薬は白内障の進行を遅らせる効果がありますが、透明な水晶体に戻るわけではありません。効果のほどはわかりませんが、最近は白内障の進行を抑えるサプリメントも出ているようです。濁りが進行して日常生活に支障が見られる場合は手術を行います。濁った水晶体を取り出して、代わりに人工のレンズを入れます。白内障の程度によりますが手術時間はおよそ 30 分前後です。手術で水晶体を取ってしまったため、術後に白内障が再発することはありません。

術後は合併症の早期発見や術後経過の確認のため短い間隔での通院が必要となります。また目薬も 3 種類以上使用します。結構大変ですが、怠ると治療困難な合併症を発症することもあるので、主治医の指示にしっかり従うことが重要です。

< 緑内障について >

緑内障という病気は、白内障と名前は似ていますが、水晶体の濁りとは関係のない別の病気です。眼に入ってきた光・映像などの情報を脳に伝える神経に障害がおこり、見える範囲・視野が狭くなってしまいます。基本的に進行はとてもゆっくりで、かつ見えない部分があっても脳や反対の眼が補っているため、病気はかなり進行しないと自覚症状がないことがほとんどです。



最新の研究で40歳以上の日本人のうち5%、20人に1人の割合で緑内障を発症することがわかっており、また別の研究では日本の失明原因の第1位となっています。

緑内障の原因については研究がすすめられています。その1つに眼の中の圧力、眼の固さを表す眼圧の上昇があります。治療方法はその眼圧を下げることです。目薬、飲み薬、点滴、レーザー治療、手術などいろいろな方法がありますが、どの治療法も眼圧を下げる治療になっています。一番副作用や合併症の少ない目薬から治療を開始することがほとんどです。また一度障害を受けた神経は回復しないので、神経がこれ以上ダメージを受けて視野が狭くならないように進行を抑えることが目的となります。

進行を抑える治療しかないことと、眼圧が下がっても自覚症状には変化がないため、治療がうまくいっていてもよくなったという実感が得られにくい病気です。また緑内障の目薬はしみたりしてあまりさし心地が良くないものも多く、目の周りに副作用が出るものもあります。そのため症状もないし、目薬はさし心地よくないし、よくなっている感じもしないしということで通院をやめてしまう患者さんも一部いらっしゃいます。最近の研究では治療を開始してから1年以内に約40%の方が通院を中断してしまうという報告もあります。ですが症状が出てしまうとその症状はもう回復しないので、症状がないうちからしっかり治療して進行を抑えましょう。

<糖尿病性網膜症>

糖尿病は生活習慣病の1つで、健康食品などにも血糖値とか糖尿とか見かけるかと思えます。糖尿病は血液中の糖分が多いことで全身の血管が傷ついていく病気ですが、眼にも細い血管があるため、糖尿病性網膜症という糖尿病の合併症がおこることがあります。網膜とは眼の奥にある神経組織で、眼に入ってきた映像などの情報が映しだされる場所です。



糖尿病性網膜症は眼の奥にある細い血管が傷つくことで出血したり、漏れた液体成分でむくんでしまったり、進行すると網膜剥離や難治性の緑内障を発症することもあり、失明のリスクもある病気です。軽症であれば経過観察ですが、重症化するとレーザー治療や注射、手術を行うこともあります。こちらでも緑内障のようになかなか症状が出ません。また受診の際に検査用の目薬で黒目の真ん中にある瞳孔を大きく広げなければならず、その後数時間はまぶしさやピントが合わないため運転ができません。そのため車社会の沖縄県では運転できない検査はなかなかハードルが高く、また自覚症状もないため通院をやめてしまう場合があります。

重症化してからも治療はもちろんできますが、それは治るということではありません。病気は落ちたけれど、視力の改善が得られず、運転免許の更新ができなかったり、日常生活に支障をきたしたりすることもままあります。早期発見・早期治療ができれば、失明の回避はもちろん、視力の維持にもつながりますので、現在糖尿病で治療中の方で、眼科検診を受けていない方や、眼科の通院をやめてしまった方がいらっしゃいましたら是非お近くの眼科受診を検討していただきたいです。



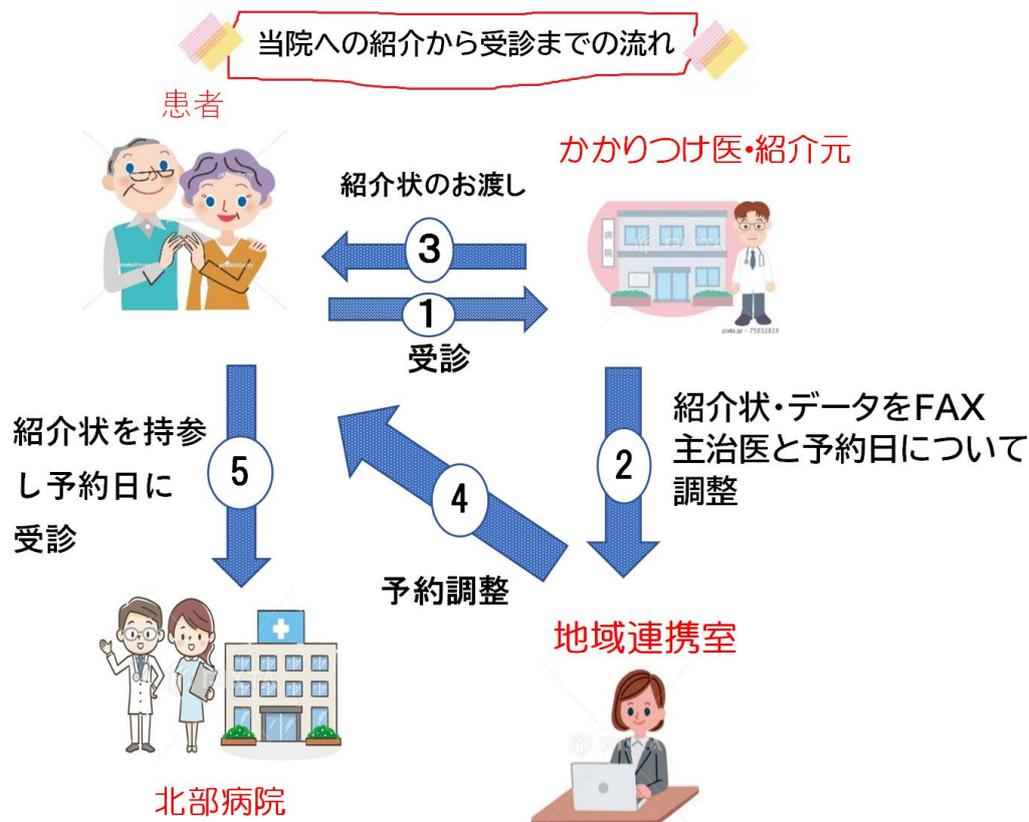


当院への患者さんご紹介手順

地域医療連携室では、地域医療の窓口として、医療・福祉機関（かかりつけ医の先生や施設）と連携して、紹介をいただいた患者さんの診療がスムーズに行えるよう取り組んでいます。

また、入院中の患者さん・ご家族が安心して、円滑な退院及び療養生活が送れるよう支援しています。

今回は当院へのご紹介の手順についてお知らせさせていただきます。



- ① 患者さんがかかりつけ医・紹介元医療機関を受診します。
- ② 紹介元医療機関より診療情報提供書（紹介状）を **FAX** して頂き情報の確認を行います。
その情報を基に地域連携室では主治医と予約日について調整します。
- ③ 紹介元医療機関より患者さんへ診療情報提供書の原本をお渡しください。
- ④ 地域連携室より直接患者さんと予約日の調整を致します。
- ⑤ 予約日が決まりましたら、診療情報提供書・保険証を持参され、当院を受診して下さい。
ご紹介いただいた患者さんの診療・検査等が終了後には紹介元医療機関へ引き継ぎます。

「やんばるメディカルゆいまーる！」

FM やんばる 77.6MHz

毎週火曜日 11:30～ 木曜日 13:30～

8月 白内障・緑内障・糖尿病性網膜症について

眼科 宮平大輝

9月 医療的ケアが必要な子どもたち

小児科 村山 和世

*視聴希望や感想などを FM やんばるへ直接メールする場合は
mail@fmyanbaru.co.jp

北部病院 公開講座のお知らせ

打つ？打たない!?

～子宮頸がんワクチン～

講師：直海 玲

日時：令和3年8月19日(木)

場所：北部病院 2階会議室

当日はweb配信を予定しています。

申し込みはQRコードより可能です。

